

寄稿

選ばれる都市へ

政令指定都市元年、「熊本市」でビジネスを



1 熊本市の今 政令指定都市元年

熊本市は、九州のほぼ中央に位置し、清らかな地下水と緑豊かな自然環境、優れた都市機能を兼ね備えた魅力溢れる都市であり、人口約73万人、都市圏人口は100万人を超えます。

昨年3月に九州新幹線鹿児島ルートが全線開業したことで、福岡、鹿児島までの交通アクセスが

強化され（それぞれ最短33分、43分）、さらには、大阪とも最短2時間58分で結ばれる等、関西圏へのアクセスも向上しています。加えて本年4月1日には、本市が全国で20番目、九州で3番目となる政令指定都市（指定都市）に移行し



▲熊本駅新幹線口の様子

たことにより、ビジネスや観光等の面で、九州における拠点が高まっています。

現在、本市では、歴史・文化、教育、農業、医療、環境といった魅力に磨きをかけ、都市ブランド力を高めながら、国内外へのプロモーションを積極的に行っています。今後、製造業からオフィス系企業まで、あらゆる企業の立地先として、あるいは観光やコンベンション、学び、暮らし等の場所として、「選ばれる都市」の実現を目指していきます。

2 日本一暮らしやすい政令指定都市 熊本市の豊かな資源・特徴

日本一の地下水都市

熊本市は、全国の人口50万人以上の都市の中で唯一、全ての上水道水源を地下水で賄っています。この地下水は、阿蘇外輪山西側とその麓の白川中流域から本市まで、過去の阿蘇



▲江津湖

山噴火により形成された堆積土壌の中を流れる間に、約5年から20年もの歳月をかけて磨かれ、ミネラル分や炭酸分がバランス良く溶け込み、おいしく体によさしい天然水となるのです。このような地下水を、本市の宝、誇りとして後世に引き継ぐ為、その保全に取り組みとともに、「蛇口をひねればミネラルウォーター」と表現し「水ブランド」として国内外に発信しています。



▲水源地

豊かな自然と農水産業

また、熊本市は、この地下水をはじめとした豊かな自然に育まれた、「農業が盛んな都市」でもあります。例えば、農業産出額は指定都市中第3位、全国の市町村の中でも第8位であり、特に、すいかは全国第1位の産出額、また、天然ハマグリの出荷額も日本一を誇っています。



▲選果場に搬入されたスイカ

歴史文化

更に、「歴史文化の根付いた都市」であり、その歴史文化の象徴である熊本城は、本丸御殿復元等の結果、平成20年には年間の来場者数が

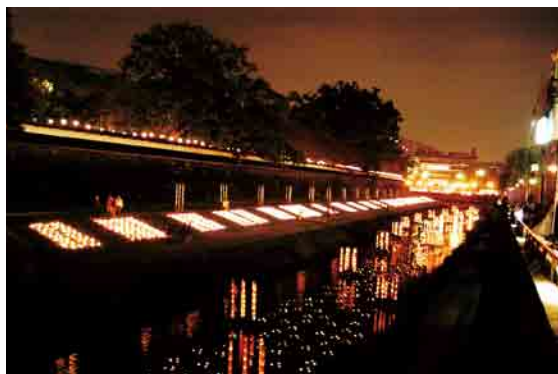
220万人を超え、国内の城郭で日本一になる等、本市観光の中心となっています。現在は、平成29年度までの第Ⅱ期復元整備事業に取り組んでいます。



▲熊本城



▲城彩苑「桜の小路」



▲熊本暮らし人祭り「みずあかり」

医療体制の充実

このような先人から受け継いだ豊かな恵みを育む一方で、暮らしやすさに繋がる都市機能の充実も図っています。例えば、医療については、医療機関の集積により、人口10万人あたりの公的病院の病床数、医師数、専任救急隊の整備数は、指定都市の中でもトップクラスです。また、「初期救急」における熊本方式と言われる医療機関の連携（開業医・大学病院勤務医・医師会病院勤務医の協力的体制の構築）により、指定都市で唯一、小児科、内科、外科の3診療科について、24時間診療を確保する等、充実した医療体制を実現しています。

学園都市

また、熊本市は、学園都市としての特徴も有しています。古くは旧制第五高等学校（現熊本大学）の立地にはじまって、現在も、大学をはじめとする



▲市電緑のじゅうたん（緑化された市電の軌道敷）

多くの高等教育機関が集積しており、人口1万人あたりの大学入学定員数は、指定都市20市中第7位と上位にあります。

3 熊本市のまちづくり
「新たなステージへ」

現在、熊本市は、九州新幹線鹿児島ルートの全線開業や指定都市への移行により、新たなステージに移る段階にあることから、私の公約に基づいた「挑戦元年アクションプラン（行程表）」を策定し、「くまもとの再デザイン」、「もっと暮らしやすさを実感できるまちの実現」、「選ばれる都市くまもとの実現」の3つの柱と130の公約を掲げ、これらの実現に向けて、重点的に取り組んでいるところです。

その中で、商工業の振興や雇用創出に関しては、「もっと暮らしやすさを実感できるまちの実現」において、市民の皆さんが暮らしやすいと感じられるようなまちの実現の為の大きな要素として、安全安心、子育て、文化力等とともに、「働く場がふれるまちづくり」を掲げています。具体的には、「地域の活力である中小企業の振興」や「企業誘致の促進」等の各種施策の実施により、活力に満ちたまちの実現を目指しています。

4 企業に「選ばれる都市くまもと」

本市の恵まれた都市環境は、企業誘致を促進する上で大きな強みとなっています。例えば、先ほど申し上げた学園都市の特徴から見れば、優秀な

人材、特に、工学系や医療・薬学系等の理系の大学院や学部・学科が充実していることから、研究開発や製造業にとって適した人材が獲得できることが挙げられます。また、地下水の観点から見れば、製造業の工場等で必要な質のよい水を確保できること、更に、地震等の災害リスクの少なさも、企業の立地先・進出先として選ばれる理由となっています。

これまで、都市圏も含めて、半導体・電気機器関連企業や自動車・二輪関連企業が数多く進出しています。また、本市は、豊かで優れた農水産物を活かす為、平成9年には食品工業団地「フードパル熊本」を開設致しました。更に近年は、豊富な人材を求めコールセンターの進出も相次いでいます。

このように本市では、指定都市として新たに飛躍する中で、持てる魅力やポテンシャルに一層磨きをかけ、九州、日本、そして東アジア地域において、企業から「選ばれる都市くまもと」の実現に積極的に取り組んでいます。特に、大学やIT関連産業の集積を活用して、産学連携による新たな商品開発や起業化支援、農水産物の6次産業化（*）等、地域特性を活かした新たな産業の創出にも努めています。

（*）6次産業化とは、「1次産業×2次産業×3次産業」の考え方に基づき、1次産業である農林漁業と2次・3次産業との連携・融合によるビジネス展開を意味します。

企業誘致

熊本市は、合併により市域が広がり、大型工場等の立地も容易になりました。今後、城南工業団



地(旧城南町)や本年中に分譲開始予定の今藤工業団地(旧植木町)への製造業・物流業の誘致を推進していきます。また、指定都市としての知名度や九州新幹線開業により向上した交通便利性を活かし、オフィス集積(支社・支店等)にも力を入れていきます。加えて、今年度から「企業立地促進補助制度」を拡充する他、地場中小製造企業の設備投資を促進する為、設備投資補助金の要件を緩和する等、雇用の受け皿となる地場企業への支援策を講じていきます。(企業立地に際して最高30億円の補助制度に拡充。県の企業立地補助制度50億円と併せて最高80億円。)

産学連携による起業化支援

「くまもと大学連携インキュベータ」においては、熊本大学をはじめとする大学等の研究者と連携して、バイオ・ライフサイエンス分野における機能性食品の開発等、今後の成長が期待される分野での起業や新事業展開の支援を行っています。

ビジネス支援
センター等による
起業化支援

くまもと森都心プラザ内に開設したビジネス支援センターと創業支援室においては、起業までの様々な準備について、中小企業診断士による経営相談等の様々なアドバイスをを行っています。



新製品・新技術研究開発支援・
販路拡大支援

高付加価値製品の開発等を支援する為、新製品・新技術の研究開発への助成を行うとともに、国内はもとより成長著しい東アジアへの販路開拓、拡大に取り組む地場企業を積極的に支援しています。

また平成23年度からは、革新的で優れた技術を持つ地場企業の製品を「熊本市ものづくり大賞」として認定し、本市が当該製品の購入を行うトライアル調達の実施により、地場企業の実績作りに繋げ、更なる販路拡大を支援していきます。



農工商連携や農業の6次産業化への支援

本市の主要産業である農業や食料品製造業において、農工商連携や農業の6次産業化を促進する為に新商品の開発支援を行うとともに、販路拡大の機会の提供を行い、地域産業の活性化を図ります。

また、食品関連の商談会を開催し、既存の商品とこれらの新商品のプロモーションをサポートします。特に商談会は、九州全域の魅力ある農水産物や加工品等を一同に集めた九州最大のスケールを目指しており、国内外から多くの来場者を集客し、九州全体における食品関連産業の活性化に努めています。

5 「熊本上海事務所」オープン

～東アジア地域からも選ばれる都市へ～

東アジア戦略の策定

熊本市では、人口減少や超高齢社会の到来、国内市場の縮小等を見据えて、中国をはじめとする東アジア諸国の活力を取り込む為、平成22年3月に「熊本市東アジア戦略」を策定しています（※1）。

現在、東アジアから選ばれる都市となることを目的に、ターゲット地域（※2）を定め、観光・コンベンション、留学生の獲得等の学園都市づくり、ビジネス、環境等、様々な分野における交流、連携、情報発信等を重点的、戦略的に進めています。

※1 本計画における東アジアの定義…韓国、中国、香港、台湾、アセアン諸国（インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナム、シンガポール、タイ、ブルネイ、ラオス、ミャンマー、カンボジア）

※2 上海市、香港、桂林市、台北市、釜山市、ソウル市、蔚山市等

上海事務所の開設

東アジア戦略の一環として、本年1月11日に、本市と熊本県、熊本大学の三者合同で、熊本上海事務所を開設しました。今後、この上海事務所を拠点として、三者で連携・協力し、観光客誘致やビジネス支援・留学生誘致に取り組むこととしています。中でも、本市では、特に観光分野に力を入れ、インターネットや雑誌等のメディアを活用した情報発信、各都市で開催される旅行博覧会等での観光プロモーション、更には、研修等のインセンティブツアーやコンベンション誘致にも力を入れていきます。



▲熊本上海事務所開所式典の様子

6 政令指定都市元年、「熊本市」でビジネス展開を

このように熊本市は、豊かな資源と様々な都市機能を兼ね備えた、将来性の高い都市であり、これからも未来に向けて躍進していきます。

企業立地にあたりましては、進出前のご相談から進出後のアフターフォローに至るまで、全面的にサポートさせて頂くとともに、今後も、指定都市という都市ブランドと九州中央の交流拠点都市としての機能を活かしながら、製造業からオフィス系企業まで、企業の立地先やビジネス展開の場所としても「選ばれる都市くまもと」の実現の為に、各種の施策に全力で取り組んでいきます。



▲空から眺めた熊本市。熊本城を中心に100万都市圏の市街地が広がる